

平成28年度 福井県バドミントン協会 会議録

平成28年4月9日（土）18:30～19:30

福井県生活学習館「ユーアイふくい」

議題

- (1) 平成27年度事業報告について 報告どおり承認
- (2) 平成27年度決算報告について 報告どおり承認
全日本シニアの余剰金が600万ほど得られたため、そのお金を特別基金や国体強化費等いくつかの項目に分けて計上した。
- (3) 平成28年度事業計画について 原案どおり承認
永平寺ふれあいセンターで6月26日（日）に開催予定の県民スポーツ祭交流の部は、参議院選挙が行われた際に会場となってしまったため、その日に開催できない可能性がある。その場合は、8月28日（日）に同会場にて開催する予定である。また、選挙の場合同日同会場にて開催予定のマスターズ予選会は、足羽高校にて6月26日15時に変更する。
- (4) 平成28年度収支予算案について 原案どおり承認
全日本シニアの余剰金として多額の収入が得られたこともあり、毎年大会参加料等の中に計上していた国体協力費を本年度より廃止する。春季クラブ対抗では、すでに要項に国体協力費込みの参加料を掲載してあるので、支払ってしまった分のお金は、後日返金する予定である。
- (5) 全日本実業団大会（福井県開催）について（実業団連盟 木船氏より）
本年度6月29日～7月3日の期間に、勝山市新体育館をメイン会場として、福井市体育館、北陸電力体育館の3会場で行われる。昨年度の京都大会では、約200チーム、2200人あまりの選手が参加した。福井大会も2000人あまりの参加が予想される。県協会、各加盟団体にもぜひご協力いただきたい。

その他・連絡

- (1) 県民スポーツ祭市町対抗の部の参加資格の見直しについて（高橋事務局長より）

現在、県体協の定めたルールに基づき以下のように参加資格を定めている。

- ・一般は、居住地。
- ・県内出身の大学生は出身市町。（県外出身者は居住地）

これまではこのルールのため、その市町に住んでいるにも関わらず出身市町でないため出場することができなかったというケースが度々みられた。また、そのために人数不足で参加できなくなった市町もあった。県協会としては、福井国体を前に少しでも多くの選手・市町に参加してもらうためにも、今回参加資格のルールの緩和を提示させてもらった。

（変更後のルール）

（一般・大学生関係なく）**出身市町または居住地**から出場する。

意見として、参加資格のある2つの市町の取り合いにならないように、「本人の意思を尊重する」などといった優先順位を載せてはどうかという案もいただいた。

今後各加盟団体にて協議していただき、7月に行われる加盟団体協議会にて決定していきたい。

(2) 全日本シニアの出場枠について（大石大会事業部長より）

近年全日本シニアの予選会では、本戦の出場枠に満たない参加者しか集まらず、参加枠が余ってしまうことが度々あった。今後は、そういった場合予選終了後にまた二次募集をかけて、少しでも多くの選手に全日本シニアに出場できるようにしていきたい。

(3) 登録システムについて（競技審判部田中より）

新しい登録システムを昨年度導入したが、福井県においては他県に比べても円滑に登録が行われた。本年度も引き続きこの登録システムで行っていくので、ご協力をお願いしたい。

(4) ジュニア育成基金より（川端副会長より）

今年度もたくさんの基金をしていただいた。本日所用により出席できなかった寺崎氏にかわり御礼申し上げます。

(5) 県協会役員の新年会等の会費について（敦賀市協会林氏より提案）

加盟団体によっては、新年会等の会費を協会が負担している団体もある。県協会の役員は、すべて自費で参加していると聞いている。県協会も会計の中から、そういった会費を計上していけばよいのではないか。（林氏より）

中嶋会長とも相談し、今後どうしていくかまた検討する。（小林理事長より）

(6) NTT 東日本選手の不祥事について（小林理事長より）

ナショナルチームの選手による違法賭博の問題は、決して他人ごとではない。県協会としてもそういったことが起こらないよう会計管理等も含め、しっかりと行っていかなくてはならない。

(7) 元トナミ運輸橋本選手の紹介（中嶋会長より）

元トナミ運輸選手の橋本選手が、県体協の特別強化コーチとして福井に赴任された。

今後は、選手としても国体福井代表の候補者としても頑張ってください。

(8) 川端副会長の閉会のことば